

桂浜水族館

桂浜水族館特別展「海〇る展」

開催期間：2025 年 7 月 19 日（土）～2025 年 11 月 30 日（日）



【企画展の内容・目的】

- 私たちの生活と密接につながる海について「〇る」という動詞表現で分類し、人と海との関係について振り返り、これからの共生について考える企画展。弥生時代の釣針から海洋プラスチックや未利用魚といった今日的な話題まで横断的に取り上げ、水族館という気軽に立ち寄れる場所での深い海の学びの提供を目的とした。
- 企画展のほか、4つの関連事業を行った。寿司職人体験や競り体験など体験を重視し、海の学びのハードルを下げるとともに、継続して海に関心を寄せる人の醸成を図った。
- 水族館で一般的な生き物の生体や科学的な特徴の展示にとどまらず、食事や釣り、歴史など文化の面を多く取り上げることで、海や魚が独立して存在するのではなく、私たち人と深くつながり影響しあっていくものであることを意識させ、より身近に感じられるよう構成した。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2025年7月19日（土）～2025年11月30日（日）

■開催場所：桂浜水族館 本館

■入場者数：74,505人



桂浜水族館 外観



企画展会場 入口



私たちにとって身近な「海」を「潜る」「釣る」「生きる」「彩る」「食べる」の5つの視点から紹介し、海と私たちのこれまでの歩みに触れ、これからの関係性を考えるストーリー構成をとった。展示全体を通して、生体の展示によって生物の多様性や魅力を取り上げることにとどまらず、パネル展示によって文化や人の生活にも目を向けるよう工夫をした。さらに、ハンズオン教材やサンプルなどインパクトがある展示物を導入し、年齢や国籍を問わない楽しみや学びが提供できるよう心掛けた。

会場入口には企画展名を掲載した大型パネルを設置し、没入感を高めるとともにフォトスポットを設置した。写真を撮る来場者も多く、思い出作りに加え記憶に残る持続性の高い展示となった。

企画展の導入となる「海に潜る」では、ウミガメの生体展示とともに外洋を広く旅するという特徴から海流について解説した。人とのつながりでは、生活に密接する海洋プラスチック問題を取り上げ来場者の関心を引いた。県内にて活動する黒潮生物研究所と共同で取り組む桂浜沖の潜水調査における最新の成果を展示し、水族館及び協力団体の活動を紹介できた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



セクション2「海を釣る」ではアカメの生体展示と釣りの歴史について取り上げた。調査の過程では当館でのアカメ飼育が2026年で50周年となることや、飼育開始当初は学名が決定していなかったことなど新たな事実が明らかになり、大型の特設パネルにて解説を行った。このパネルはアングラーを中心に来場者からの人気が高く、会期終了後も展示を継続することとなった。文化の側面では釣りの歴史について、高知県埋蔵文化財センターの協力を仰ぎ、県内で出土した弥生時代の鉄製釣針にて紹介した。県内からの来場者でも存在を知らない方が多く、新たな学びを提供できた。水族館では種の分類や生息域に基づき展示をするが、このセクションでは「釣りの対象として人気がある魚」と「釣り人から敬遠される魚種(=外道)」とに分けて展示し、水槽内にルアーを投入することで普段は釣りに興味がない来場者の興味を引き、海中の様子をイメージしやすいよう工夫した。



セクション3「海と生きる」はアジなど身近な魚種の展示を通して、人の生活に近い海の話題を紹介した。特に、当館は南海トラフ地震の甚大な被害が予想される場所に立地しており、防災について丁寧に取り上げた。結果、高知海上保安部・坂本龍馬記念館との共同で、来場者を対象とした防災・避難訓練イベントの実施が叶った。また海と生きる水族館として、当館の年表を作成した。90年以上の歴史を生かした当館らしい掲示物となり、多くの来場者に注目いただいた。

つづくセクション4「海を彩る」では魚の形態的特徴を中心に遺伝やユニークな形を紹介した。内容はやや難解ではあったが、生き物をより深く観察するポイントを詳細に解説することができた。



セクション5「海を食べる」では、私たちの食卓にのぼる魚種をはじめ、高知特有の食文化である皿鉢料理やカツオの藁焼きを取り上げた。また館内の柱に巻型の掲示を行い、来場者にインパクトのある展示ができた。多くの来場者から評価をいただくとともに、SNS 上での拡散も見受けられ、事業全体の周知につなげることができた。また展示では食品サンプルや大型のカツオ漁船の模型を用い、広い世代の興味を引くよう工夫をした。また水産庁や高知県が取り組む水産施策なども紹介し、来場者の発展的な学びを促した。

本企画展の結びとして、アンケートの中に「海〇る」という問いを設け、来場者が展示を見学し感じたことのまとめを行ってもらった。それぞれに個性のある言葉がならび、企画展の意義を感じることができるものとなった。

【来館者の声】

- 高知の食文化や海についていろいろ学びました。また来ます(24 歳女性)
- 海には美しかったりキレイだったりする生き物が多くいるから守っていきたいと感じた(年齢不明・女性)
- 疑似餌に似たようなゴミがあったら(魚が)食べちゃいそうだから海に行った際は少しでもビーチクリーニングをしようと思いました!(23 歳・男性)
- 私たちの暮らしには海とのかかわりが必要不可欠だと思いました。(27 歳・女性)

2. 関連事業の内容

■海を【握】る～寿司職人体験ワークショップ

【開催日時】2025年6月28日（土）14:30 ～ 16:30

【開催場所】寿しー貫せと店

【参加者数】10組26名（小学生13名 保護者13名）

【実施内容・目的】

- 小学生を対象に地元の寿司店と共同で寿司職人のお仕事体験を実施した。クイズを中心に知識を深めたのち、職人による魚捌きを見学、実際に寿司を握り家族への提供や試食を通して学びを深めた。
- 世代を問わず身近な寿司を題材に取り上げ、海の学びに対するきっかけづくり。実際に加工を体験することで水産物の加工や流通にかかわる知識を深めるとともに、命をいただくことを通した情操教育を目的とした。
- 海や魚に関わる仕事を疑似的に体験し、自身の仕事で「お客様」に喜んでもらうことを経験し職業の選択肢を増やす機会づくりを担った。



開催場所の全景の様子



受付の様子



当館近隣の寿司店全面協力のもと、実際の店舗にて寿司職人のお仕事体験会を開催した。対象は地元の小学生とその家族。広報開始直後から申込があり、最終的にはキャンセル待ちが出るほどの参加申し込みがあった。

受付では安全な事業実施と飲食店における衛生管理の重要性を紹介することを目的に、検温の前1週間の体調をヒヤリングした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



全体の構成は小学生が寿司を提供するまでを体系的に体験できること念頭に、①知識をつけるクイズ②接客練習③魚捌きの見学④寿司握り体験⑤寿司の提供⑥試食とした。単に寿司を握ることだけにならないよう、接客等も内容に入れた。開催時の工夫として、受付後、すぐに保護者と子供を分離し寿司職人の任命式を行った。これ以降、小学生の参加者を「見習い寿司職人」、保護者を「お客様」とすることで、子供たちの自律的・主体的な活動を行うことができた。

活動①クイズでは寿司ネタの養殖・天然の違い等を取り入れ、あとの体験とリンクさせた。②接客練習では、店舗で実際に行われている接客用語の練習を適用した。



当日は頭・内臓付き鯛の入荷を依頼し、参加者の目の前で捌きの実演を行った。魚の解体を初めて見る子どもも多く、鮮血に驚いた様子で命への感謝を体感できる機会となった。普段見慣れた刺身の状態になると参加者からは自然と拍手が沸いた。

寿司握りでは最初こそシャリの握り方や海苔の巻き方に苦戦したものの、次第に上達し、お客様である保護者の注文を元に、自分で握った寿司を誇らしげに提供する子供たちの姿は印象的であった。最後は、子供たち自ら寿司を試食し嬉しそうに完食していた。結びには主催者からの挨拶と「給料」として水族館の招待券や寿司店の食事券をプレゼントし、働くことを具体的にイメージできるものとなった。

【来館者の声】

- 海は大切にしないといけないと思った。(9歳女性)
- 海にはいろいろな魚がいてすごいと思った(8歳女性)
- 魚クイズもおすしを実際に握らせてもらう子供を見て楽しそうだった。(保護者)
- 寿司を握ることも貴重な経験ですが、魚をさばくところを見せていただき、どのような過程で食べることができるのか学べたので良かったです。(38歳女性)

■特別展クロージングイベント「ありがとう海〇る展」

【開催日時】2025年11月29日(土)、30日(日)
9:00~17:00

【開催場所】桂浜水族館本館・屋外展示場、桂浜本浜

【参加者数】450人

【実施内容・目的】

○特別展を総括するクイズラリー、ビーチコーミング、宣言等の複合型イベント。

○参加者に総合的な海の学びを提供するとともに、活動を通じて思い出に残る体験を通して、特別展を含む事業全体の継続的学びを促すことを目的とした。



最終日はおとどちゃんが
制服を着てお出迎え



海ゴミビンゴの参加者とおとどちゃん



本イベントは①クイズラリー②ビーチコーミング③写生体験④海〇る宣言によって構成した。特別展の解説や展示をより注意深く読み、学びを深めてもらうことを目的とした。同時に、会期終了後も来場者や参加者が、主体的に海の学びを続けられるようなヒントを提供できるような内容とした。

会期中にリピートで来館されたお客様からも、「今まで見ていたけど気付かなかった」等の言葉を直接いただくことができ、特別展を含む本事業の意義を再確認する場となった。



クイズラリーは「海〇る展」の解説文作成を担当したスタッフを中心に作問し、展示の中で特に見てほしい箇所をピックアップした。家族連れやカップルが多く参加し、解説をじっくり読みながら解き進めた。館内ではスタッフが適宜巡回し、ヒントや該当する解説までの案内を担ったため、参加者とのコミュニケーションが促進され、追加の解説を行うことができた。水族館出口にて答え合わせを行い、全問参加者には抽選にてノベルティを提供したため、不正解でも解説や展示を往復して再回答するなど熱心に取り組む姿が見受けられた。

写生体験では、特別展を中心に展示を観察し、写生を行い作品はリアファイルに印刷して提供した。この活動では参加者の滞在時間の延伸効果があり、付随する展示や解説を読むなど副次的な効果も多かった。



ビーチコーミングは「海ゴミビンゴ」と題し、専用の用紙を配布したうえで浜辺のゴミを拾い、該当するものに穴をあげビンゴを目指す仕様をとった。これにより若年層も参加しやすい内容となり、ライトな層の取り込みができた。漂着ゴミの多くが人の生活に由来することを再認識する場所となった。また作成したワークシートは継続的に使用できる構成とため、今後の柔軟な利用が見込まれる。

「海〇る宣言」では会期中にアンケートとして実施していたものを展開し実施。企画展ポスターに直接書き込んでもらうことでイベント化した。自然とコミュニケーションが生まれ。感想や思い出を直接ヒヤリングすることができた。

【来館者の声】

- 子供や孫たちが楽しめるクイズラリーや魚の解説がよかった。
漁師の家育ちで昔はよく取れていた魚がプラスチック類やゴミが増えて魚の居場所がなくなってきたぁと考えました。(53歳女性)
- 実際に食べた魚を写真で紹介しているのがよかった(年齢不明女性)
- 海のにおいってこんな感じなんだ…と。(感じた)(22歳男性)

■ハマスイ鮮魚の日！～第1回ハマスイ海鮮総選魚

【開催日時】2026年2月7日(土)、8日(日)
9:00～17:00

【開催場所】桂浜水族館本館・トドプール

【参加者数】約1000人

【実施内容・目的】

○魚の生体や特徴と、水産物の流通について総合的に学べる複合型イベント。時節に合わせた選挙型のイベントと魚の給餌解説イベントを連動して実施した。

○より深く生体を観察するとともに、水産物が私たちの食卓に至るまでの経路について楽しく学ぶことを目的とする。



選魚ポスターと投票場所の様子



競り体験の様子



本イベントは①第1回ハマスイ海鮮総選魚②ハマスイ未利用魚市場③おさかなアクティビティタイム④トドと学ぶ競り体験の4つの催事にて構成。来場者に対し、魚を深く観察する機会を提供するとともに、ユニークな生態や形態的な特徴を紹介した。また食卓に並ぶ魚類(=鮮魚)に着目し、選挙を題材にしつつ、水産物の価格決定の原理や流通について体験を通して紹介、学ぶイベントとして実施した。



ハマスイ海鮮総選魚では時節に合わせて選挙型イベントとして、水族館で飼育する食べられる魚(鮮魚)を候補としてお客様に投票してもらった。時節に合わせた話題性を取り入れ、お客様からの好反応を引き出した。参加者に対しては自身が投票した魚にさらに注目してもらう機会となった。投票先の選定にあたっては来館者同士、スタッフとのコミュニケーションを促進できた。結果は全体の約3割を得票したウツボが1位当選、独特の食文化を持つ高知ならではの結果となった。

ハマスイ未利用魚市場では、近隣の深海底引き漁師から未利用となっている深海魚を譲り受け、来場者に触ってもらう機会を提供した。あわせて傷等の見た目の問題から廃棄されてしまうアジ・サバも混ぜたところ、こちらに興味を示すお客様が多く、予想外の結果となった。一般的に流通している魚でも、改めて観察する機会は重要であると感じた。



魚への給餌とその解説イベントは「おさかなアクティビティタイム」として開催。通常、公開をしていない給餌時間を来館者と巡り、適宜解説を加えた。給餌時間にのみ観察できる行動が見られ、来館者から時折歓声が上がった。アカメの給餌では特別展用に作成したパネルを元に解説することができ、資料の有効活用が叶った。

「トドと学ぶ競り体験」では、競りの実演・体験を通し、参加者とともに市場の役割等、水産物の流通について理解を深めた。高知における初マグロの落札価格や競りの意味を深く学べる機会となった。人気の高いトドを組み込むことで参加のハードルを下げつるとともに、動物による漁獲への影響や自然と人との共生について解説することができた。

【来館者の声】

- (よかったイベントは)魚に触る体験。子どもは魚を触ることがなかったので良い体験。(35歳・女性)
- 普段食べている魚は様々な人が支えていると知った。海はもちろん関わっている人にも感謝。(27歳・男性)
- 桂浜水族館は目の前に海があるので水族館で魚や動物にふれた後も自然、「海」を感じられてイベント企画との親和性が高いと感じた。私もできることから始めて、海を守りたい。(15歳・女性)

■海で【飲】る～土佐のおきゃく体験

【開催日時】2026年3月14日(土)15日(日)
10:00～15:00

【開催場所】桂浜水族館特設会場

【参加者数】132組 約550人

【実施内容・目的】

○高知特有の文化「おきゃく」を通した食育・釣り体験イベント。

○水族館内に特設の釣堀を設営し、釣りを体験したのち試食することで、命のありがたみを再認識するとともに、釣りを通した海との交流のきっかけづくりを目的とした。



開催場所の全景の様子



担当したスタッフ



食育や水産の振興・来場者への釣り文化の振興を目的とした釣り体験イベント。開催日には高知市内で「土佐のおきゃく(※)」が開催されており、県内外からの来館者におきゃくの歴史等を口頭で説明した。おきゃくや皿鉢調理については、「海〇る展」内でも立項しており、作成した解説板も活用することができた。

※「おきゃく」とは高知流の宴会のことで、皿鉢料理やカツオのたたきなどを囲み酒を酌み交わす文化全般を指す。江戸時代の絵巻などでは、桂浜砂浜に緋毛氈を敷きおきゃくを行う姿が確認されている。



当館の屋外展示場の空きプールに足場を設営しアジを放流、特設の釣堀として来場者に公開した。釣竿等のセットを貸出し、餌付けから釣りを体験したのちにアジを観察した。釣り上げたアジはスタッフが捌き、フライにして提供した。全体を通して、水族館で釣りができるという意外性が好評で、世代を超えた参加があった。また日ごろから釣りを趣味とする参加者から、ビギナーまで経験を問わずに楽しめるものとなった。特に釣りははじめて経験する子どもたちにとっては生きている魚をはじめて触る機会ともなり、学び・遊びの両面から大きな効果があったと感じている。



フライ提供の場面では、参加者が一様に美味しそうに食べており、食事の前には自然と「いただきます」と発していた。子どもの中には骨やしっぽまで食べる参加者もあり、この点では特に保護者からの好評を得た。

釣りや食文化の解説を通し、海の学びにおける釣りが持つコンテンツ力と、食材及びその育成の場としての海・魚と日常的に食べている魚との間には大きな距離があることを感じた。両者をつなぐ海の学びの重要性を痛感するとともに。本イベントの実施においては船の科学館様とのコミュニケーションから着想を得た部分も多く、海の学びにおける横のつながりを意識するものとなった。

【来館者の声】

- 水族館で釣った魚を食べることができるとは思いませんでした。子どもにとっても親にとっても魚の生命力を感じることができた体験でした。(45 歳女性)
- 自分で釣って食べて海を感じた(36 歳女性)
- 海の恵み、命をいただいていることを改めて感じました。27 歳男性)
- 海は全世界につながる全員共通の財産!(47 歳男性)

【事業全体のまとめ】

本事業では、海について広く取り上げることができ来場者に海とのかかわりを再確認する場を提供できた。また、生体や解説文に加え、模型やサンプルなどを使用することで、言葉を超えたインクルーシブな展示が実現した。「海離れ」が指摘されて久しい中で、魚の流通や歴史など意識しないと見えない「海」と「人」との関係について気づきの場となった。また学芸員やスタッフにとっても、海の学びや展示について新しい気づきや発見があり、本事業での経験を今後の事業にも活用してまいります。

最後に本事業では助成をいただき、桂浜水族館でこれまでにない規模・カテゴリの企画展と関連事業を行うことができました。水族館というと生きた魚や自然科学が中心になることが多かったですが、食や文化について深く取り上げることができました。また前例がないことにも挑戦できたのは金銭面だけでなく、ノウハウやアドバイス等伴走型の支援をいただいた部分が大きかったと感じています。船の科学館様をはじめ、携わっていただいた皆様に心より御礼申し上げます。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 高知県埋蔵文化財センター	資料提供・解説文監修
2. (公財)黒潮生物研究所	潜水調査・資料提供・監修分監修
3. (株)サニーフーズ寿し一貫せと店	体験イベント開催協力
4. 道水中谷水産(株)	養殖場視察受け入れ・資料提供
5. 竜宮祭実行委員会	資料提供
6. 地元漁師	生体提供・写真撮影協力・取材協力・視察受け入れ
7. (株)サンライン	資料提供・調査協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. エフエム高知	小さな浜辺の水族館 2025年8月7日(木)
2. RKC 高知放送	かつおのおじたライブ!!in 桂浜水族館 2025年8月22日(金) ※後日YouTube掲載
3. RKC 高知放送	ケイシーリサーチ 2025年9月8日(月)
4. 東京トラベルパートナーズ	旅介TV 2025年9月30日
5. RKC ラジオ	デハラのヨルラジオ 2025年7月18日(金)
6. RKC ラジオ	中継コーナー 2025年8月15日(金)
8. KUTB テレビ高知	はびきん(中継) 2026年1月20日(金)
7. KUTV テレビ高知	夕方のニュース 2026年3月15日(日)
8. KSS 高知さんさんテレビ	夕方のニュース 2026年3月16日(月)
9. 高知新聞 朝刊	19面「子どもが寿司職人に 水族館の魚クイズも」 2025年6月30日(月)

10. 高知新聞 朝刊	19 面「海の事故備え クイズや訓練 桂浜水族館 観光客ら楽しく学ぶ」2025 年 8 月 30 日(日)
11. 高知新聞 朝刊	24 面「釣って食べて命実感 ハマスイで食育イベント」2026 年 3 月 27 日(火)
12. 桂浜公園ブログ	深い歴史ある海と人々を繋ぐ「桂浜水族館」 2025 年 6 月 30 日(月)
13. 桂浜公園ホームページ	桂浜水族館特別展「海〇る展」開催のお知らせ 2025 年 6 月 30 日(月)

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。